

HOT LINE

ホットライン



No. 18
2012. Win 冬号

社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院

特集記事

福岡和白病院 心臓・脳・血管センター

HNVC開設・組織案内

福岡新水巻病院 院長挨拶

院内の行事報告・院内旅行

頼れるドクター

地域医療ネットワーク

福岡水巻看護助産学校・周産期センターだより

新武雄病院 西田院長の著書

「背骨の病気は手術で治す」



院長挨拶

Message from the president



藤井 茂
福岡新水巻病院 院長

波乱の2011年も終わり、2012年を迎えました。

今年は日本が、無事で幸せに過ごせますことを切に願うところであります。

開院後9年を迎え、来年6月の10周年記念には大規模な催しを企画中であります。

乞うご期待であります。

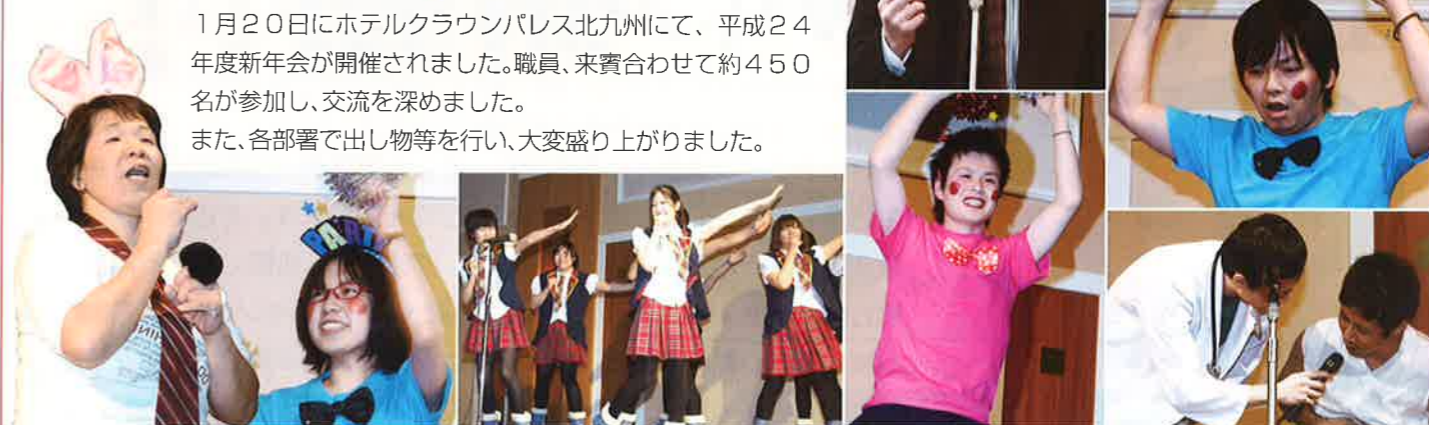
昨年の当院の実績は、1か月の新規入院が600人を超すようになりました。当院のベッド数は212床ですので平均在院日数も11日を切ってきました。特に救急車の数が500件を超し、年間6000件となっており、北九州だけでなく、全国的にも有数の病院となってきました。隣接する福岡水巻看護助産学校の教育もおこなっており、昨期待望の第1期生が卒業しましたが、看護師国家試験合格率100%という快挙を成し遂げました。この数字が長く続くことを期待します。本年度から、助産科の最初の国家試験もあり、こちらも期待されるところです。常勤医師数も昨年初めて50名を超え、質実ともに充実してきました。こういう時だからこそ、初心に帰り、病院理念に基づき、患者さん中心のわかりやすい医療に努めたいと思います。

目下の懸案としては、ベッド不足であります。新規の患者さんが毎月1800人来られており、これも県内トップ10に入っています。入院と同時に、退院のお話をしなければならず、当院の地域医療における役割もはっきりしてきました。当院での急性期医療が終われば、早めの退院、転院をお願いしています。御理解のほどお願いいたします。救急医療は待ったなしで、たらいまわしが決して起こらないように、当院職員は一生懸命に体を張って頑張っておりますので、御協力をお願いいたします。

最後になりますが皆様の本年度のご健康をお祈りします。

「福」新年会

1月20日にホテルクラウンパレス北九州にて、平成24年度新年会が開催されました。職員、来賓合わせて約450名が参加し、交流を深めました。また、各部署で出し物等を行い、大変盛り上がりしました。



消防訓練



昨年の12月8日に、消防訓練が実施されました。参加した職員は、患者様を迅速かつ安全に避難誘導できるよう、緊張感を持った訓練を行いました。

豊前天地山ジョギング大会



昨年の12月4日に開催された、第24回豊前天地山ジョギング大会に20名の職員(猛者)が参加し、10kmと5kmのチームに分かれ、日頃の練習の成果を十分に発揮し完走する事が出来ました。

院内旅行



福岡和白病院 心臓・脳・血管センター

HNVC ついに **始動!!**

統括副院長(循環器内科)
齋藤 太郎 先生

高齢化やライフスタイルの欧米化、そして糖尿病人口の増加とともに生活習慣病としての動脈硬化性疾患が増えています。そこで、社会医療法人財団 池友会「福岡和白病院」では今秋、血管に関する病気を総合的に診療・治療する「HNVC(心臓・脳・血管センター)」を開設しました。心臓だけ、あるいは脳だけを診ていては血管に異常をきたした患者さんの他の異常を見逃しかねません。当院は循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、放射線科がタッグを組み、心血管病全体に対応すべく、新しい体制のもとチーム医療を展開します。

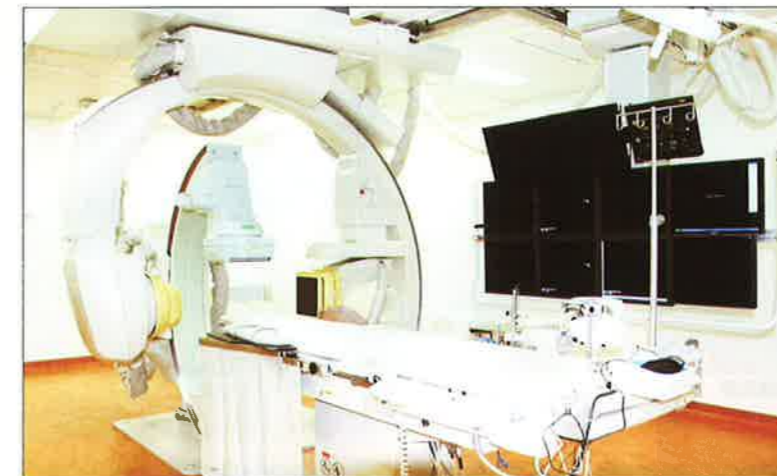
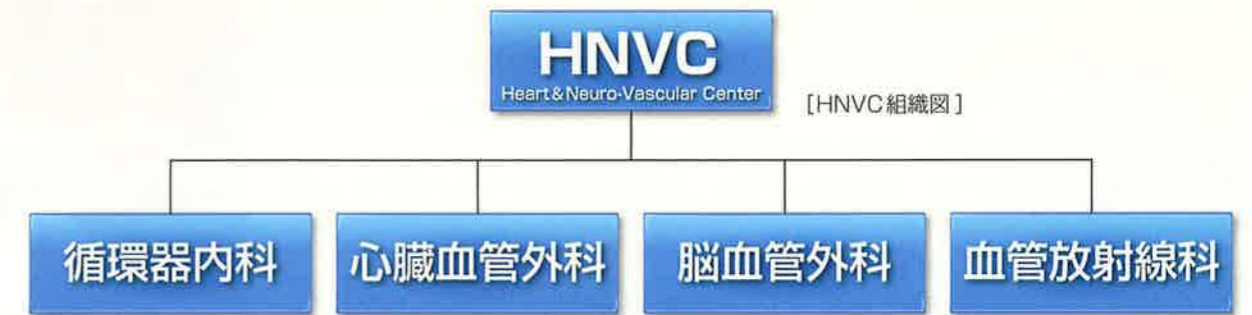
「血管病」は耳新しい病名ですが、心筋梗塞や狭心症、脳梗塞や脳出血、くも膜下出血(動脈瘤破裂)など、全身のさまざまな臓器で起きる動脈硬化性疾患を総称して言います。診療は一般的に、心臓は循環器、脳は脳外科などそれぞれ専門の診療科で行っていますが、血管病は心臓、脳、大動脈、末梢神経に重複して起こり、長年にわたって進行する疾患という特徴があります。さらに自覚症状がないまま動脈硬化が進み、突然発作に襲われ重大症状が表れるというサイレントキラーの特性を持っています。病変を個々の臓器だけ、またある時点だけをとらえて診療していると、別の臓器の病気や将来起きる可能性がある病気を見逃す恐れがあります。「心臓・脳・血管高度治療部」(HNVC=心臓・脳・血管センター)では、心臓を含めた血管系全体を一つの臓器としてとらえ、血管病は全身病という共通概念の基で、循環器内科、心臓血管外科、脳血管外科、血管放射線科が従来の枠を越えて総合的に動脈病変の診察と治療を行います。さらに動脈病変は、糖尿病(高血糖)や高血圧、高脂血症、メタボリックシンドロームなど生活習慣病、喫煙、遺伝などがリスクファクター(危険因子)として関係しており、四つの診療科が血管病のデータベースを共有し、他の臓器の血管も評価しながら、これらに対する内科的治療や健康指導にもアプローチします。日本人の死因は、悪性新生物が最も多く、2位は心疾患、3位は脳血管疾患と続き、寝たきりになる原因としては脳血管疾患が1位です。心臓や脳に起きる虚血性の疾患は、死に至る危険を伴い、死を免れても後遺症が残ったり、再発を繰り返したりします。チーム診療により、外来のほかドクターカーや救急ヘリによる急患の対応も行い、予防を含めて血管病をトータルに診断・治療・指導し、早期リハビリとも連携して患者様のQOL(生活の質)向上、最期まで元気に暮らせる健康長寿の実現に貢献する地域医療を目指します。

的に動脈病変の診察と治療を行います。さらに動脈病変は、糖尿病(高血糖)や高血圧、高脂血症、メタボリックシンドロームなど生活習慣病、喫煙、遺伝などがリスクファクター(危険因子)として関係しており、四つの診療科が血管病のデータベースを共有し、他の臓器の血管も評価しながら、これらに対する内科的治療や健康指導にもアプローチします。日本人の死因は、悪性新生物が最も多く、2位は心疾患、3位は脳血管疾患と続き、寝たきりになる原因としては脳血管疾患が1位です。心臓や脳に起きる虚血性の疾患は、死に至る危険を伴い、死を免れても後遺症が残ったり、再発を繰り返したりします。チーム診療により、外来のほかドクターカーや救急ヘリによる急患の対応も行い、予防を含めて血管病をトータルに診断・治療・指導し、早期リハビリとも連携して患者様のQOL(生活の質)向上、最期まで元気に暮らせる健康長寿の実現に貢献する地域医療を目指します。

“技と心”で命を救う

HNVC 施設・組織の紹介

HNVC 福岡和白病院 心臓・脳・血管センター(Heart & Neuro-Vascular Center)は、血管病に携わる診療科が一つのチームとして活動します。



▲第4血管造影室



▲CCU(Coronary Care Unit) 病室



▲第3MRI室



▲4階病室



▲庭園



▲透析室(改築)



▲リハビリ室(改築)



▲デイルーム

頼れる
ドクター

福岡新水巻病院周辺の地域医療をささえる
地域密着型医療施設のご紹介コーナー。

大好評に第2弾!!

かかりつけMAP ナンバー 149

地域医療ネットワーク いさやま整形外科医院

◆ 医院の特徴・特色を教えてください ◆

1. 「元気になる病院」がコンセプトです。
来院いただいた全ての患者さんが、元気にスポーツ現場や職場、日常生活に復帰出来る様サポートいたします。
2. 今、コンセンサスの得られている最良の治療を提供します。
時代と共に進歩する医療情報、技術を常に意識し、その時点で確立されている最良の治療を心がけています。
3. かかりつけ医として地域医療に貢献します。
当院では開院以来、一度でも来院・受診いただいた患者さん約2万人のカルテ、レントゲン全てを保存しています。何時来ても自分のデータが有りますので安心して受診して下さい。



院長 諫山 智洋 先生

● 休日の過ごし方・趣味など ●



大学時代から始めたテニスとスキーは今も現役です。普段は週に2〜3回、健康のためにプールで泳いでいます。



▲待合室



▲リハビリテーション室



▲スタッフのみなさん

◆ 福岡新水巻病院との連携について ◆

MRIやCTなどの検査では、いつも迅速に対応して頂いています。整形外科の領域では入院が必要な場合や、難しい手術などは、産業医科大学整形外科の同門である為、一貫した治療方針で安心して治療して頂けます。内科や外科、脳神経外科などの他科領域でも気軽に相談に乗ってもらっています。

◆ 読者の方へ一言 ◆

福岡新水巻病院は病診連携にも積極的な病院です。これからも協力しながら地域の皆様のお役に立っていきたく思いますので、宜しくお願いいたします。

いさやま整形外科医院

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科
〒807-0876 北九州市八幡西区日の峰 1-22-22
TEL 093-692-6708 FAX 093-692-8911

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	—
14:00~18:00	○	○	○	—	○	—	—

木曜午後・土曜午後 日祝日は休診です。



福岡水巻看護助産学校

研修旅行報告

training trip report



12月15日から、2年生がカンボジアと奄美大島とにわかれて研修旅行に行ってきました。なぜカンボジア?と思われるかもしれませんがね。本校蒲池理事長が、カンボジアのアンコール小児病院の建設プロジェクトの開始当初から医療顧問として関わっていることもあり、海外交流、ボランティア活動、国際看護の一環として、カンボジア研修旅行を組み込んでいます。

3泊5日の旅程で、アンコール小児病院をはじめ、アキラ地雷博物館&ワットタマイ&高床式民家等を視察見学し、日本との医療、生活の格差を痛感しました。また、世界遺産アンコールワット等の遺跡を巡り、その国の歴史を肌で学び、カンボジア料理や民族舞踊も堪能しました。

奄美大島班は2泊3日の旅程で、国立療養所奄美和光園を視察見学し、ハンセン病についての学びを深めて来ました。

看護師を目指す学生にとって、命の大きさ、大切さを見つめなおす意義のある旅となりました。



▲国立療養所奄美和光園



▲アンコールワット遺跡にて

周産期センターだより



● 周産期センター研究会のご案内 ●

福岡新水巻病院周産期センターでは、毎月第一水曜日に北九州西部地区育児支援研究会、第三火曜日に北九州西部地区周産期医療研究会を開催しております。近年では全国各地から、あらゆる関係の先生方を迎えることができ、さらに助産師・看護師の方々による研究会も数多く開催しました。大変幅広い講演内容となっております。2月で育児支援研究会は65回目、周産期医療研究会は61回目を迎えることができました。これも、毎回多数の方々が来院し熱心に参加いただいた結果だと思えます。これからもさらなる充実を目指して努力を続けてまいります。

○北九州西部地区 育児支援研究会とは?

育児に関わる一般の方々から、医療従事者までさまざまな方々を対象とし、育児・成長・発達・健康などについて考える会です。

○北九州西部地区 周産期医療研究会とは?

様々なテーマについて、産科と新生児に関わる医療従事者を中心として御意見を頂戴しながら周産期医療の発展を目指す会です。



※研究会について、お問い合わせ等ございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。医療連携室 池主まで

